2日目 セッション概要

G-1 失敗プロジェクトを削減する要件確定前進の試み

8/31 10:00 S社における要件確定研修の成果事例報告

システム企画研修株式会社
代表取締役　上野　則男

■**セミナーの狙い**　失敗プロジェクトの原因の大半は、契約を含めた上流にあることは周知の事実となっている。S社では失敗事例を分析し、機能要件の詰め方、非機能要件の確実な把握方法、見積り・契約のあり方、仕様変更対応の方法、ヒアリング手法、交渉術などの研修・訓練を行った上で、学習したことの実践をし、その結果を報告する訓練コースを開発し、実施中である。
その内、機能要件の詰め方に関しては、「開発目的の明確化」を中核に据えている。
目的の明確化は、あらゆる案件で重要なことという認識はありながら、実践は非常に不十分な状況である。目的を明確化する訓練成果が、S社では次々と実現している。その状況をご報告する。

■**セミナーコンテンツ**　1. 要件確定力強化研修開発の背景　2. 同研修の内容　3. 開発目的明確化とは　4. 開発目的明確化の効用

■**受講をお奨めする方**　①失敗プロジェクトを削減したい経営者・プロマネの方　②失敗プロジェクトの削減をミッションとしているスタッフの方　③プロジェクトの成功条件を探求している方

■**講師略歴**　システム企画研修（株）代表取締役。1961年東大経済学部卒。帝人、日本能率協会などを経て、1984年目的重視思考をベースにしたシステム企画方法論MIND－SAの提供・研修会社を創業し、現在に至る。著書に「業務革新ガイドブック」「システム部門変革ガイドブック」「価値目標思考のすすめ（NTT出版）」などがある。MIND－SA研修の受講者は4万人以上。

G-2 曖昧性やあるべき論を許容するマネジメント

8/31 13:45 PMの心得と行動は？

有限会社ウィンアンドウィン
代表取締役　近藤　哲生

■**セミナーの狙い**　プロジェクトマネジャーを困らせている問題に、プロジェクトの「曖昧性」の存在と「あるべき論」を振りかざした組織の締め付けがある。プロジェクトマネジャーにとって曖昧性の存在やあるべき論は本当に迷惑なモノであろうか。一方で、プロジェクトマネジャーには、曖昧性の中から具体的な作業を作り出し、あるべき論のもとで所定の作業を完遂させることが期待されている。プロジェクトの中での曖昧性の存在とあるべき論の正体は何か。また、曖昧性とあるべき論の関係性と功罪について考える。そして、これらの存在を認め合い、むしろこれらの条件を強いプロジェクトを作る原動力していく方法について考える。

■**セミナーコンテンツ**　プロジェクトに潜む曖昧性とあるべき論の正体。曖昧性の存在を認めることによるマネジメントの内容や方法の変化。曖昧性やあるべき論を建設的な問題提起と捉えるマネジメントの視点。強いプロジェクトをつくる仕掛け。進化し続ける組織の条件。

■**受講をお奨めする方**　曖昧性とあるべき論のはざまで困っていたり、全員が納得するマネジメントをしたいと考えているプロジェクトマネジャーやプロジェクトリーダー。

■**講師略歴**　1946年愛媛県生まれ。日立製作所に入社。情報・通信システム、艦船搭載システムなどの開発に従事。技術的、納期的に苦戦するプロジェクトの立て直しを数多く経験する中から、独自の「プロジェクトを成功させる方法論」を見いだす。特に、個人と組織の関係性に着目した「自律的な学習するチームづくり」を促進するプロジェクトマネジメント方法論の確立に取り組んでいる。2002年、PMの技術コンサルタント会社ウィンアンドウィンを設立。
著書「実用企業小説 プロジェクトマネジメント」日本経済新聞社発行　他。

K 「ふりかえり」によるITプロジェクトカイゼンワークショップ

8/31 10:00

株式会社永和システムマネジメント　コンサルティング事業部
事業部長　天野　勝　ワークショップ

■**ワークショップの狙い**　変化の激しいビジネスを支えるITシステムを構築するには、プロジェクトはその変化に振り回されるのではなく、変化に追従する必要がある。プロジェクトが環境に適合して自ら変化する「カイゼン」や、そのカイゼンを推し進めるための「現場力向上」が求められている。
本ワークショップでは、ITプロジェクトにカイゼンを導入するための「ふりかえり」という考え方を紹介し、具体的な手法としての「KPT」を実習を通して、体験から学んでいただくものである。

■**ワークショップコンテンツ**　ふりかえりの手順、KPT、カイゼンの原則、解決指向型と原因追求型、ふりかえりを促進するツール

■**受講をお奨めする方**　ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネジャー、およびチームリーダー。「現場力向上」に関心のある方。

■**講師略歴**　株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。日本ＸＰユーザグループ企画スタッフ、アジャイルプロセス協議会　運営委員などを務める。
著書：「eXtreme Programmingテスト技法 - xUnitではじめる実践XPプログラミング」（共著）、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」（共訳）、その他、雑誌への寄稿多数。

L WBS活用の基本

8/31 10:00 どのように作り、使い、使えるか

有限会社デム研究所
代表取締役　城戸　俊二　ワークショップ

■**ワークショップの狙い**　WBSはチームでものごとを進める際の柱となる枠組みであり、ステークホルダーが協働テーマの進捗状態を共通に認識するため要である。昨今、パフォーマンスマネジメントが重視されるようになって来たが、これにはタスクの中身を的確に把握することは勿論、その作業の時間や遂行資源との関係を統合的にマネージすることが必須である。本講座はWBSが持つ「要」の機能を正しく理解し、その機能に適う品質のWBSを作る要領を研修する。即ちWBSを作るに当たってスケジュールやプロジェクト実行組織、ステークホルダーなどとの関連を、どの時点でどのように勘案し、整合を取り、その結果どのように活用できるかを、演習を介してビジュアルに理解を深める。

■**ワークショップコンテンツ**　WBSやスケジュール、プロジェクト組織に関する基本的な知識をおさらいした後、数名毎のグループに分かれて、演習キットを用いてWBS、スケジュール、役割分担表を、順次立体的に組立てる。演習プロジェクトのシナリオは汎用性を考慮して“マイホーム建設”とする。

■**受講をお奨めする方**　WBS活用のスキルを高めたい方。但しPMBOK®入門相当の理解をしていること。

■**講師略歴**　昭和37年 九州大学工学部卒、同年4月 東洋エンジニアリング（株）入社。同社でPE、PM、PCM、PMS技師長などに従事、平成10年 定年退職 。同年（有）デム研究所を設立、PM教育講師、企業のPM手法導入、業務機能分析支援などで現在に至る。
【PM関係社会活動】 平成6年（ENAA)PMSS分科会長、平成7、8年（同）CAE/PMS分科会長および幹事、平成2～10年（同）PM講習会講師。現在PMAJ理事、同PMリソースセンター長。

H-1 コンフリクト・マネジメント

8/31 10:00 多様化する職場での協調的問題解決とは？

株式会社オイコス
メンター　鈴木　有香　ワークショップ

■**ワークショップの狙い**　従来の均質性を前提とした雇用環境の変化を視座に入れ、多様性を前提とした視点から職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。また、Win－Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通じて学ぶ。

■**ワークショップコンテンツ**　コンフリクト・マネジメントストラテジーとその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループ・ディスカッションを含む。

■**受講をお奨めする方**　基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々

■**講師略歴**　早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス、メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ（米国）にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修を一部上場企業（外資系、日系）を中心に担当。 また、法律家に対するADR研修も精力的に行っている。著書に「交渉とミディエーション」、文部省検定教科書「On Air」（共著）など。

H-2 プロジェクトの元気はPM自身の元気から

8/31 13:45 モティベーションのマネジメント

法政大　松尾谷　徹、(株)富士通アドバンストソリューションズ　宮下　圭一
富士通(株)　松田　浩一、(株)CIJ　石田　誉幸　SIG ワークショップ

■**ワークショップの狙い**　トップアスリートやエキスパートはメンタルトレーニングに多くの時間をかけている。何故ならば、メンタル状態は成果に大きな影響力を持っているが、常に維持することができないからである。プロジェクトの成果はメンバーのスキル状態とメンタル状態の影響を強く受ける。スキル状態は、経験と共にどんどん蓄積するが、メンタル状態は頑張れば消耗し、維持することができない。優秀なPMは、良いメンタル状態＝“プロジェクトの元気”をうまく制御する業を持っている。もうひとつ大切なことは、PM自身が良いメンタル状態でないと、“プロジェクトの元気”をマネジメントすることが困難なのである。
このセミナーでは、PM自身のモティベーション回復からプロジェクト元気へと導く実践事例や、基礎理論（組織行動学）について分りやすく解説する。

■**ワークショップコンテンツ**　PS（パートナー満足）研究会とそのメンバーが実践し、成果を出した、各種「モティベーション向上策」をセミナー用にアレンジした。

■**受講をお奨めする方**　メンバーのやる気、または、自分自身の元気に問題を感じているPMやチームリーダ

■**講師略歴**　PS研究会／MM4は、第一線で活躍するPMが中心となりプロジェクトを元気にする向上対策、元気を奪うダメな事例、元気を診断するPS診断の研究を行っている。今回の発表は、MM4の成果をまとめた。
松尾谷 徹　PS研究会代表、法政大兼任講師、博士
宮下 圭一　(株) 富士通アドバンストソリューションズソリューションビジネス本部プロジェクト統括部長
松田 浩一　MM4代表 富士通　ネットワークソリューション事業本部　プロジェクト統括部長
石田 誉幸　(株) CIJ　SIビジネス事業部副事業部長

M 現場力を向上させるプロジェクトファシリテーションの実践

8/31 10:00 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション

松本屋　松本　潤二　ワークショップ

■**ワークショップの狙い**　チームの状態をプロジェクトファシリテーターがどのように捉えるのか？　チームの状態に対してどのように働きかけることができるのか？
ソフトウェア開発のプロジェクトをファシリテートする方法を講義と体験を通して自らの知識と経験として学習する。

■**ワークショップコンテンツ**　プロジェクトファシリテーションの概略、情報認知や心理学的観点、コミュニケーション手法。知識を体現するためのワークショップ。講義とワークショップを織り交ぜて実施。

■**受講をお奨めする方**　ソフトウェア開発の現場で悩みを持っているプロジェクトマネジャーおよびチームリーダー。また、ファシリテーションに興味があり、自分が実践する意欲のある方。

■**講師略歴**　中小のソフトウェアハウスにてシステム開発を経験後起業、現在フリーランス。主にシステム開発の現場で、アジャイルなチーム作りと、プロジェクトファシリーテーションを実践する。また、2005年より個人や組織を対象としたコーチングを行う。コンピュータ技術系やコミュニケーション系の研修講師やワークショップのリードを行う。